

高信頼性ICタグ

「光り玉」は主流となる実用品

新しい実用品の定義は、いままでなかった概念で現場の効率改善に効果をもたらすことです。なにか機能が無線でデータを送付するとき、その機能は常時動作している必要がないときがよくあります。これがポイント。

主流となるためにはなんらかの必然性を必要とします。その必然性が現場の要求とマッチしたとき主流となる可能性をもちます。

技術は主流とならなければなりません。このことによりその技術の信頼性と低コスト性が維持できます。どのようにして主流になっていくのか。それはお客様のニーズに合わせていくことです。

似て非なるものを認識する技術は過去も現在も将来も必要とします。そのために「光り玉」は大活躍します。

「光り玉」は卓越した発明品ではなく、主流となる実用品です。実用化されて初めて「光り玉」は光り輝きます。